

特別推薦記事：平可夫の見た中国製兵器

(漢和防務評論の今後の編集方針の変更について)

漢和防務評論 20170531(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

漢和防務評論の主幹平可夫氏は、2017年5月31日号で、中国軍事工業全般を総括した記事を掲載しましたが、同時に同誌の編集方針の変更を記事の中で説明しました。

中国軍事工業に対する同氏の考え方は従来の記事を総括した内容になっていますが、編集方針の変更については、読者にとっては”寝耳に水”の感じで、中国マネーに取り込まれたか？と不安を感じさせました。

同氏の説明によると、読者の範囲が広がり、中国国内の多くの読者の意見も反映させる必要があるため、としています。

当然、事実を曲げる可能性も考えられるわけですが、同氏は、事実のみを報道する、と述べています。

同氏は活動範囲が広いだけに、今後も有益な中国記事を期待したいと思います。

最近開催された国際装備展示会において、中国の武器集团公司の責任者と会って談話の場を持った。相手方は、中国航空工業集団の責任者を除き、極めて熱心に対応してくれた。話題は、主として中国製武器の開発と発展、並びに近年來の”漢和”の関連報道についてであった。簡単に説明すると、これらの談話において、相手方は個人の立場で意見を述べたもので、中国の官側を代表するものではなかった。概要は以下のとおりである：

1. 我々(中国人)は、”漢和”の忠実な読者であり、漢和の雑誌も購読している、と述べた。ある人は、”貴方(平可夫)は中国製の武器を公正に評価しているか？”またある人は、”貴方は中国に怨みがあるのか？”さらには”貴方の記事は、貴方の意見、論理であって、我々の武器設計には我々の論理がある”と述べた。

2. ロケット軍の関連報道について、中国軍事工業内部及びロケット軍内部で大きな論争があった。一人だけでなく、多くの人が、”ロケット軍はあまりにも詳細な報道は望まない”と述べた。彼らは、漢和の関連報道が最高の国家安全に関わることを認めた。

平可夫の返答は次ぎのとおり：

全ての内容が公開されたものに基づき、平可夫はそれを分析しただけである、と。

中国側の人員：貴方(平可夫)の報道は、大量の衛星写真の分析を含んでいる。そ

の上、貴方は中国をよく知っており、独特の精緻な分析は米国に利用される可能性がある。したがって我々は良くは思っていない。多くの人は貴方に会うのを避けようとしている、と。

3. ある集团公司の専門家は、”漢和”が当事国から獲得した情報であるとしても、中国製武器の輸出国の国名を直接出すのは控えて欲しい。なぜなら輸出交渉中は秘密を保つ規定になっているからである、と述べた。

以上の談話から、精密公司、長征公司、北方工業公司の上層部が”漢和”に関心があることがわかった。”漢和”はこのことに感謝したい。実際のところ、細心な読者はわかると思う。我々（漢和）は、上述した公司の開発した武器装備を批判したことはない。むしろ積極的に報道している。

第一に、我々は：過去 28 年間のニュース報道の中で、確かに中国の一部の武器開発を批判した。それは主として空軍及び海軍の武器の複製に関する問題についてであった（詳細は後述）。我々は、同時にまた中国製武器の進歩についても常に報道している。後の部分の報道については、一部の読者から無視された。実際のところ、中国製武器の進歩を最も多く報道する外国報道機関は”漢和”なのである。

中国の装備生産企業、公司、海軍司令部上層部は”漢和”を閲覧しており、我々の読者である。我々は、当然彼らの意見を尊重しなければならない。また一部の合理的意見は採用しなければならない。元海軍司令の呉勝利大將は、シンガポールで次のように述べた：私は貴方の論文を読んでいる。非常に鋭い文章だ。しかし一部は推測である、と。現在、彼はリタイアしている。私は、彼（私の読者として）のいくつかの言葉を賛美している。ご機嫌取りではない。わが家族は、人におもねる主義を最も嫌う。

次に、ロケット軍専門家の懸念は、完全に理解できる。もしある人が私のことを専門に書き、特に私が持っているバイオリン、油絵などの分析情報を、どこに、どのくらいの数を持っているか？誰が制作したのか？創作か？価値は？金庫を開ける暗証番号は？開ける順序は？防犯ガラスの性能は？私がいつ家を不在にするか？等々を分析したら私は相当怒るであろう。

現在、私は読者に申し上げたい！読者は、私が中国を常に批判していると思われませんか？中国軍事工業を常に批判していますか？

私は、これらの人々をこころから感心している。度量があり、自信があるから私の”漢和”を読んで、私の批評を見ているのだ、と。中国人は私の批判を受け入れないことはない。やはり中国人は、大国人である。比較すればよくわかる。

その二、私は、複製に慣れた中国航空工業を除き、中国軍事工業に本当に感心している。このわずか 10 年間で、彼らはどのくらいの製品を生み出したか？我々は、事実だけを尊重する。中国、韓国、トルコを比較すると、進歩の速度はどうなのか？中国はダントツである。

しかし”漢和”はカナダのメディアである。私個人は、自由に慣れ、放蕩に慣れ、祖母、母親、妻から甘やかされ、自由気ままで、常識をわきまえない性格である。読者の皆さん私を許して欲しい！私は、かつて中国軍事工業の指導者に話したことがある：私の会社には党委員会はない。私が何を書こうと、何を報道しようと、だた事実のみを尊重する、と。

次に、西側メディアの報道姿勢について、正面情報はニュースにならない。西側の新聞の価値観とは何か？虎が人を咬み殺してもニュースにならない。なぜ中国のメディアは最近このような事実を大げさに報道するのか？私は不思議に思う。もし人が虎を咬み殺したら、これは”漢和のニュース”になる。したがって漢和の報道は、確かに”問題報道”に着目している。しかし全ての国家に対して同じ姿勢である。

さらに、もし我々の報道が、中国軍事工業の発展を大々的に扱ったならば、中国の一部のメディアは、我々が”中国脅威論”を煽っていると批判するであろう。過去に、常に起こった事例である。中国自身が強大になるに従って、中国の一部の同業者（メディア）は、報道に手加減する姿勢が求められている。また、中国の一部の半官半民のメディアは、外国メディアの記事を翻訳し、或いは”漢和”の記事を引用する際、書き加え、誤訳し、或いは捏造記事を書いている。例えば以下のニュースである：

”漢和：中国空軍基地は劣っている。戦時になれば惨敗する”と。（漢和はこのような報道を行ったことはない。ただ単純にパキスタン、エジプト、中国の基地建設を比較しただけである）

”漢和：中国は、（空母用）アレスティングワイヤを生産できない”（原文は、ロシアは中国にアレスティングワイヤを輸出しない、空母製造が重大な困難に直面する、と書いただけである）

”漢和：サウジアラビアはHQ-9型地对空ミサイルを購入”（原文は、アラブの某国がHQ-9地对空ミサイルを購入と書いた）

等々の類である。

しかし、我々は：今後の”漢和”の報道は、90%以上の読者に公正、中立であると認めさせなければならない。これは中国内地の広大な読者も含む。

もし中国軍事工業に関する報道において、中国軍事工業自身の絶大多數の読者が不公正であると認めるならば、私は、”漢和”の編集方針を検討しなければならない、と思っている。その場合、徹底的に改変する。私は90%以上の読者に確実にそれを保証する。今後”漢和”の報道は、100%を目指し読者の満足が得られるようにしなければならない。過去の一部の報道に対して、読者の不興をかった。私は心から謝罪したい。

”漢和”は公正中立な資金で運営されているのか？回答は次の通り：100%公正である。なぜ？公正、中立を維持するためには強力な財政力が必要である。我々は、如何なる人にも依存していない。如何なる背景もない。したがって今後、

我々は、さらに多くの正面切った中国報道を行う。一部の西側読者の方には、我々が北京の金銭に取り込まれたと考えないで頂きたい。我々が金を貰って何に使うというのか？また、華人社会は金銭で思考方式を変更する傾向が強い。今後私は、北京の姿を正面から報道する。ある人は金銭でサジ加減をしたというかも知れない。私は、いま読者に伝えたい：私は、もはや金銭は必要ない。現在、私が他人に金銭を与える番が回ってきた。様々な国家で投資する時代である。

いま私は読者に伝えたい：私がこの仕事（漢和）を始めたきっかけは、好きで興味があったからである。生活のためではない。毎年私の誕生日には、一日中反省し、かつ帰納し自ら報告した。多くは自分のマイナス面の批評である。用いる言葉は中国軍事工業に対する批評よりも辛辣であり、冷酷である。大脳は”国家代表会議”（国会）を開催する。44歳の誕生日は、”44大政治報告”を類推して反省を行った。

カナダにおいては、人々が自己の財産をひけらかすことはしない。財産が話題になることはない。作品が話題になる。私はキリスト教徒である。本来そうあるべきだ。しかし、状況及び背景が特殊であるため、私は我々に忠実な読者に次のように表明しなければならない：私は、独立かつ中立を貫徹するに十分な財力がある。どちらか一方に反対する必要がない、と。

”44大政治報告”に明確に記載した：”20年（現在は30年）の艱難辛苦を経て、精心創業、我が家族（人口3人）の1人あたりGDPはすでに（当時の）欧州で最も発達した国家の平均水準をはるかに超えた。我々は生存問題を徹底解決した、と。

今後の業務の重点は精神文明に移行する”。実際に、我が家族の経済は、1993年に離陸を開始し、高度発展段階に入った。資本主義は私の性格に適合し、私は、如何なる背景にも依存する必要がなくなった。私が求めるものは、キリストが私に与えてくれた。これは、”漢和”が中立、公正を貫徹する力である。收藏品について、私個人は数十個の18、19、20世紀の国際大師級バイオリン製作者の絶佳バイオリンを所蔵している。ほかに70幅に近い欧州の名画家の油絵をも所蔵している。しかも所蔵品の数が毎年増え、高級化している。過去10年、油絵の価格は10倍以上に高騰している。ある人は私がバイオリンを売買するのは節税のためだけであると考えているが、それは当たらない。

ソ連軍の多くの作戦思想、原則をよく学び、日常生活に応用すれば、貴方は優れた商人になれる。商業界のジュコフ元帥である。この方面の経験を、今後私は急がず報告し、分かち合いたい。これは軍事がテーマではないが、財産を自慢したと誤解されては不都合である。

私は、当然スパイではない。なる積もりもない（11歳前後の子供の頃、関心があったがすぐに世事をわきまえるようになった）。なぜか？忠実な読者に対して率直に述べると、私は、主要な大国の政府研究機関、外交部、国防部から常に招請を受けていた。これらの国家を訪問し、これらの国の官方学者と一緒に国際問題を討論した。事後、私は、主催者から、実は我が某某”高級学者”は某

国の情報機関、或いは軍の情報機関の首脳または副首脳であると、告げられた。或いは主催者は、単刀直入に：我国の情報主管担当者が貴方に会いたいと言っている。会いたいですか？と事前に質問した。或いは某国のある情報首脳または副首脳などは、事前に身分を知らさず、後で某国の国会答弁テレビ番組を見て知った。これは秘密ではない。

私は、国際的な主要国情報機関の首脳、副首脳、あるいは情報部門主管と会って、問題を討論したことがある。しかし私は、如何なる情報機関からも直接招待を受けたことはない。また彼らから金銭を授受したことはない。私は、自費でビジネスクラスに乗る。あるときは特等席（避税方式）で彼らの招待を受けることがある。あるときは、招待する側がビジネスクラスの航空券、五つ星ホテルの宿泊費を提供することがある。これは拒否すべきだろうか？この場合、結局現金の受け渡しはなく、私は求めない。情報界首脳級人物の興味ある話題は、主として国際大戦略である。例えば、北朝鮮情勢、中国の南シナ海政策等である。私は、客観的に分析するだけである。これは、私の中立性に影響を与えない。しかも各方面に役だっている。

もし中国情報機関の首脳が、私に会って **THAAD** 及び北朝鮮に対する分析を聴きたければ、手弁当で行っても良い。ここでまず明確にしたいことは、金銭で動かそうとしても、問題を複雑にするだけである、ということである。

読者に許しを乞いたい。これは絶対に財産をひけらかすためではない。ひけらかしは私の性格ではない。”漢和”を利用して誰かから金銭を授受し指図を受けたり、誰かを中傷したりする必要が全くないことを説明しているのである。

金銭を受け取り、誰からか指図を受ければ、国際的な笑いものになる。現在、中国からの金銭提示額は最高である。

このように説明する目的は次のとおりである：我々（漢和）の読者は、たとえ中国と非友好国の国防部、情報機関、外交系統であっても漢和を通じて真実を理解することを望んでいる。彼らは、中国を貶めたり、あるいは脅威を製造する方式のニュースには全く興味がない。彼らは国家の意志決定機構の人間である。

かつて台湾の国防部を取材した際に、柯姓の副部長は”漢和”月刊誌を直接取り出して次のように述べた：私は、この号の内容を部下に整理させ、直接部長に報告した、と述べた。ここで補足すると：”漢和”と私自身は、今後とも台湾問題では絶対に中立を保持する。できるならば、この点を積極的に橋渡しをしたい。私は”一つの中国、各自の制度”を受け入れる。これは台湾各界、民進党を含め、如何なる損失も生じさせず、台湾海峡の戦略安定を維持することができる。

これと同時に日中関係でも、積極的な働きができるかもしれない。

ほかの問題は、秘密でも何でもなし。私は多くの軍事装備公司、及び国家のための装備品の輸出入市場の解析を行っている。これは私が報酬をもらっている。これは私の重要な収入源のひとつである。なぜなら毎回私の結論が正確だからである。

これらの装備公司、国家は、他国の武器を貶むことに対しては全く興味がない。彼らは真実を求めている。これは商業取引である。

全体的に見て、私は、”漢和”の過去の報道は完全に事実に基づいていると考える。批判的な評論もあったが、全ての人に役立つと考える。私は、かつて中国精密機器輸出入公司の副総裁に対してこのように言ったことがある：もし読者が”漢和”を熟読したならば、読者は浪費を避けることができる、と。現在、具体的な例は次の通り：

1. 1996 年、平可夫は、中国とイスラエルが A--50 型早期警戒機に関する契約に署名してから 1 ヶ月も経たない時期に、当時の”東亜外交と防務評論”誌上で、次のように明確に書いた：この契約は必ず失敗する。米国が必ず介入する。同じ誤りを中国は繰り返している、と。

2. トルコが地対空ミサイルの入札で HQ-9 を第一に考えていると述べたことに對し、中国メディアが歓喜している際に、”漢和”は：”不可能である。トルコは最初から誠意がない”と報道した。このまえロシアの S-300PMU 地対空ミサイルが入札に参加した。私はトルコの装備展覧会でロシア軍事代表団に同様の問題を忠告し、彼らに告げた：その気になってはダメだ、と。ロシア代表団の責任者は：アンドレー、我々は状況を理解している。我々は本気にしていない、と述べた。S-300PMU2 は入札に参加しなかった。ロシア人は老練だ。

我はここで忠告した：現在またトルコ人は、ロシアの S-400 に目を転じている。”本気にしてはダメだ。トルコが NATO から除名されれば、ひょっとして旨くゆくかもしれないが”と。

私はニュース報道ののち、精密公司に対して友好的に忠告を行った。その後、彼らはこの話題を避けた。そして PR するために多くの資金を費やした。

3. 私は、パキスタンが使用する中国製ミサイル護衛艦の洗濯機を報道したことがある。乾燥機の質が悪く、3 ヶ月で壊れた。パキスタンは冷気で乾燥させるしかなかった。その後、中国側は各護衛艦に 10000 ドルの賠償を行った。パキスタンの知人は今でもこの話を持ち出す。

4. また私は、イージス級ミサイル駆逐艦を建造できる中国海軍が、甲板上に衣服を干しているニュースを報道したことがある。2005 年に海軍司令部が調査した。現在は見られないはずだ。

5. 確かに私の報道は、米国に政治的に利用されたことがある。例えば、Z-10 型武装ヘリコプターは、カナダ製エンジンを用いているとの問題提起である。この会社の工場は我が家から遠くはなく、当時私は、解説を付けず事務的に報道しただけであった。今から見ると、米国人は、我が報道以前に、すでに圧力をかけていたのである。この点は私は謝罪しない。なぜなら私には、第三者に政治利用させる意図がなかったからである。当時制裁の話などはなかったのである。このような話が出たとすれば、新華社の報道が米国に利用され制裁になった可能性がある。

しかし今後は、一部の複雑な問題については、より多くの配慮が必要であると私は思っている。これは了解した。

6. ZUBR 型大型エアクッション船の建造ニュースについて。ロシアは極めて不満であった。私は何度も次のように報道した：当時、当初から、中国はロシア

の設計局と技術移転の協議を行っており、技術情報を獲得していた。その後、中国は、突然ロシアとの交渉を放棄し、単独でウクライナの **MORIYA** 造船所と契約を締結した。工場長は非常に若く、私は何度も彼と討論した。ロシアの **ARMAZ** 設計局の主任設計師は私に次のように述べた：中国が **MORIYA** 造船所と契約した（実際上の契約は、ウクライナ国家武器輸出入会社との契約である）のは間違っている。彼らは工場を持っているだけで、設計や建造中に問題が発生した場合、対処できない、と。同工場がギリシャ海軍のために建造した第一艘目の **ZUBR** 型は、現在運用中である。しかし酷い振動問題が発生し、速度が上げられない。その後、ギリシャは、ロシアに再度組立を求めてきた。工場は主として生産に利用する工程図を持っているだけで、ソ連時代はそれを”南方図紙”と称した。サンクトペテルブルグに置いてある。”建造の過程では必ず問題が発生する”と。これは **ARMAZ** 主任設計師の当時の証言である。**KDR** が行った報道は、確かな証拠がある。2004 年 8 月に創立した”漢和”に記録されている。結局この問題は怎么样了か？

中国の **ZUBR** 型は、現在も技術的問題が解決されないまま、生産中である。中国とウクライナでは人命が失われている。中国は、自動車事故によるものである、としている。

7. 我々は、長年に渡って報道してきたことがある：**J-11B** の生産ラインが過早にロシア側の支援を排除したため、未だに技術が消化しきれていない。必ず問題が発生する。これは、私とロシア人の論争である：**J-11B** は複製機と見なすことはできない。せいぜい一方的に契約を終了しただけである、と。なぜなら **SU-27SK** と **J-11B** のエアロダイナミックスを比べると、改変されていないからである。

しかし **SU-33** の複製及び **J-16** の場合は正道ではない。私は今日でも同じ考えである。これは、私と中国航空技術関係者との関係を極めて悪化させた。**J-11B** がどのくらい生産されたか見てみよ！**J-16** は何年試験飛行をやっているのか？また何機生産されたのか？**J-15** について？私はずっと以前から考えていた。私はホラ吹きではない。

かつて **MIG-21** の複製機である **J-7MF** は何機生産されたか？空軍は喜んだのか？なぜ同じ誤りを繰り返すのか？中国は誤りの繰り返しが多い。

中露両国の航空工業界が使用する材料の品質、密度は完全に異なる。設計師の教育訓練方法も異なる。なぜこのように設計しなければならないか？なぜこのような設計でないのか？もし材料を換えたならば？

これらはリバースエンジニアリングではない。測図によって技術を消化することは可能だ。このような簡単な道理をなぜ政策決定者は理解しないのだろうか？下部組織の人は従順に”指導者”に従うのか？体制の問題である。私が批判したら、私を恨まねばならないのか？

私の報道は、随意に推測しているのではない。大量の第一線での取材を基にしたものであり、また経験の累積でもある。

SU-30MKK のテストパイロットであり、総設計師の **ALEKSEI KNISHEV** を私は何度も取材した。ある時は、パリ航空ショーで **SU-27** の総設計師 **M.SIMONOV** と一緒に盃を酌み交わした。

私の上述の報道を、もし中国の航空界の指導者がわずかでも聞いてくれたら、回り道を多少避けることが出来るのではないか？私の報道が事実でないはずがない。しかも中国の武器技術水準は、向上している。現在すでにその他の国家が中国製武器を複製する事態に直面している。中国にとって輸出上の大問題である。ますます増える中国の”漢和”読者は、私がなぜ J-15 や J-16 問題で複製に絶対反対する理由が理解できると思う。

読者は、中国の全ての武器設計者が私の考えに不同意であると考えているだろうか？現在、私が何を知っているか貴方に伝えよう。

第一、装備品の複製に最も反対しているのは習近平である。この点だけは彼が正しい。彼は軍内会議で何度も積極的に”創新”を主張している。これが、なぜ彼が主席就任後、J-11B が生産を停止し、J-15、J-16、J-11D の開発が遅れたのか、の理由の一つである。一方独自開発の J-20 は開発が加速した。しかし私は、彼が提議した”一路一帯”政策、対 THAAD 対策には賛成しない。当時キリストは、伝道の旅で盲目的に金をばら撒くことはなかった。その代わり病人を治療し伝道した。日本人はこのように学習している。したがって日本は、アフリカでばら撒く金は少ないが、大歓迎を受ける。経済貿易問題は経済貿易の規律に従って行わねばならない。盲目的に”国際貿易大躍進”政策を行ってはならない。金をばら撒いて友人が出来るのか？次に、習近平はソ連の対外交渉の経験を多く学ばねばならない。THAAD 問題は、同時に二つの国家の反感を買い、最も喜んでるのは平壤だ。

国際戦略問題に関して、我々は、今後も継続して報道し、異なる意見も発表していく。これは各方面に利益となる。

第二、スホーイ戦闘機の複製に最も反対するのは誰か？それは最高機密である。中国独自の設計団体は、實際上スホーイ戦闘機の複製を決定した。暗愚の胡錦濤の下、郭伯雄が権力者であった時代に行われた。”実力者”が支持したと言われている。言い換えれば、複製行為自体が郭伯雄と徐才厚の残した害毒である。およそ 11 歳の頃、父親は私に最も優れた教師を選んで西洋の油絵を学ばせた。彼は今日、著名な版画家となっている。彼はリエピン画派の崇拝者で、当時私に多くの美しいリエピン画派の絵画を見せてくれた。私は教師に：油絵を学びたい。リエピンの作品を全部模写したい、と話した。ところが教師は：それは画家ではない。真の画家ではない。他人の作品を模写してはいけない。自ら靈感を求め、生活を体験し、自ら創作しなければならない、と述べた。その後、私はやんちゃな性格になり、座っているのが不得手になりバイオリンを学んだ。中国の航空機設計は、すでにアジアでは最優秀で、国際的には 1 乃至 2 流の水準にある。J-20 や J-31 が設計できる高水準の設計師は、自ら SU-33 や SU-30 の複製を求めるだろうか？それに反して、彼らはエアロダイナミクスが知的財産権の重要部分であり、複座型と単座型の知的財産権は異なる、等々を最も早い時期から意識していた。このことからスホーイ戦闘機の複製は郭伯雄と徐才厚の残した負の資産であることがわかる。

したがって、読者は、私がひたすら J-20、J-31 を貶めてきた、と考えるので欲しい。實際上、私は最初からこれらの設計師を尊重してきた。私はこの 8 年間、超音速巡航能力のある真の第五世代中国戦闘機を見ることはできなかったし、

中国の発動機工業の現状を正確に認識していることを表明したかった。現在いたずらに 7 年が過ぎている。なぜか？私は、中国、ロシア、欧州が早期に真の第五世代発動機を生み出すことを望んでいる。

私が真に言いたいこと。私の”漢和”は、創刊当初、友人達の集まりであった。私はすでに若くはない。衣食は足りている。私がなぜ今、読者に謝るのか？それは、この記事が”漢和”の編集方針の一時代の終了を意味することを私が伝えたいからである。今後、私は報道用語に十分注意する。そして公正性に十分注意し全ての読者に満足を得られるようにする。同時に、もし中国のある人々が、ロケット軍に関する多すぎる報道を希望しないならば、私の分析に対して一部は肯定したとしても、私は当然彼らの意見を尊重する。今後は、衛星写真を使った詳細な分析は少なくなる。私は好奇心が強く、一晩中、寝ないで自己満足に耽っている。如何なる意図もない。

私は、今後他人の極くわずかの欠点を報道しようとは思わない。知っても心に収めることにする。

各方面の意思の疎通は重要である。今回が一つの例である。如何なる読者であろうとも、如何なる背景があろうとも、私に手紙を出し、要望を伝えることができる。私は、通常極めて真剣に返事を書く。私が僅かに要望することは、私個人への人身攻撃はしないこと、私は自信がある。したがって私は従来から如何なる第三者も批判しなかった。当然キリスト教徒として従来から人身攻撃はしていない。読者は、私が他人を人身攻撃した例を見い出せるであろうか？このほか、一部の装備の性能に関する討論については、純粹に学術レベルの範疇であり、国内外を問わず、政治問題化しないで頂きたい。

最後に、私は、以下のとおり決定した：

1. 第二砲兵に関する独自ニュースは、今後公表しない。特に衛星写真分析は行わない。
2. 如何なる国家にあっても装備品に関する輸出入報道、特に地对地ミサイル、長距離ロケット砲、長距離地对空ミサイル等、戦略的武器の輸出入に関する報道は行わず、ニュース報道は両当事国の同意が得られた場合のみ、報道する。この記事の中で、私の資産について自慢げに述べた部分があったことを再び謝罪する。中立を維持するためには実力（資産力）が必要だ。これが私が説明したい内容だ。

以上